

研究室紹介ポスター

法とエコロジー研究室

森林破壊や種の絶滅を扱う社会のルール（法律や裁判）はいかにあるべきか。歴史、構造、実態についての分析が求められています。研究室では、日本やアメリカ、ニュージーランドなど環境法を対象として研究を進めていますが、ポスターでは、日本の裁判例や法制度について紹介します。

教授 及川 敬貴 OIKAWA, Hiroki 主な担当予定授業科目 環境法 I・II

植物分子生理学研究室

当研究室では、植物の代謝生理を分子レベルで解明し、得られた知見を活用して、世界で深刻な食糧・栄養問題の解決に貢献することを目指しています。ポスターでは研究の一例として、植物の代謝に関わる遺伝子の機能解析について紹介します。

准教授 中村 達夫 NAKAMURA Tatsuo 主な担当予定授業科目 植物生理学 I・II

生態系評価学研究室

当研究室では、景観生態学や群集生態学の手法を用いて、生態系の理解に基づく生態系の管理や保全に関する研究を行っています。モンゴルや中国内モンゴルの草原生態系、日本の山岳域における湿原の生態系、都市の生態系などが研究の対象です。

准教授 佐々木 雄大 SASAKI, Takehiro 主な担当予定授業科目 保全生態学, 都市生態学

社会老年学研究室

これからの高齢社会のあり方を構想し、より良い高齢社会を実現するために、高齢者の生活に関わるさまざまな問題や課題について研究しています。ポスターでは、これまでの卒業研究とフィールドワークについて紹介します。

教授 安藤孝敏 ANDO Takatoshi 主な担当予定授業科目 高齢社会とリスク A・B 社会調査法 A・B

森林生態学研究室

生態系における自然撓乱の役割の解明や、また自然撓乱の生態系に対する必要性や人が撓乱抑制によって変質させた生態系の復元手法の開発をおこない、包括的な生態系の保全と管理をおこなうエコシステムマネジメントの実現をめざしています。

准教授 森 章 MORI, Akira 主な担当予定授業科目 復元生態学 I・II

リスク共生社会創造研究室

社会には多様なリスクが潜在しています。この多様なリスクはそれぞれが関連をもっていて、あるリスクを小さくする活動が他のリスクを大きくすることもあります。この様な状況下で豊かな社会を実現するためには、目指す社会像に近づくために多様なリスクにどのように対応していくかが重要になります。研究室では、社会に潜在する多様なリスクを明らかにすると共に、そのマネジメント手法の研究に取り組んでいます。

教授 野口 和彦 NOGUCHI, Kazuhiko 主な担当予定授業科目 社会リスク学 A・B

科学史研究室

特に中国に注目し、中国医学の考え方の発達などを、資料をもとにして思想的背景から研究しています。

准教授 長谷部 英一 HASEBE Eiichi 主な担当予定授業科目
イノベーション思想史 I・II

環境安全化学研究室

化学物質の使用が私たちの暮らしを豊かにしてくれる一方で、環境汚染や健康影響が懸念される物質もあり、そのリスクの適切な評価、管理が重要です。当研究室では、化学物質のリスク評価やリスクに応じた効率的な環境安全管理手法、浄化手法を研究しており、ポスターではその概要を紹介します。教授 小林 剛 KOBAYASHI, Takeshi
主な担当予定授業科目 環境汚染の科学 I・II、都市環境浄化工学 I・II

数理生物学研究室

数理モデルを使って生物と環境を理解し、またさまざまな生物現象の意外性を解明して、さまざまな環境問題の具体的な解を求めることをめざし、環境リスク、生態系管理、数理モデル、持続可能性、進化ゲーム、生態リスク・水産資源管理の研究を行っています。

教授 松田 裕之 MATSUDA, Hiroyuki 主な担当予定授業科目 生態リスク学入門、生態リスクマネジメント事例研究

情報の安全管理とリスク解析研究室

情報化社会を支える情報システムと情報セキュリティのマネジメントの仕組み、また、情報化社会の各種活動により生成・蓄積された多様なデータには隠された知識や貴重な知見などを抽出・活用し、さまざまな問題を解決する研究を行っています。

教授 徐 浩源 XU Haoyuan 主な担当予定授業科目 リスク分析のための情報処理 A・B

土壌生態学研究室

私たちの食料は9割以上が土壌を使って作られたものですが、その土壌は人間活動の影響で急速に劣化しています。土壌生物の生活を知り、土壌の生態系の仕組みを知ることが人類の持続可能性にとって重要なテーマとなってきました。土壌の生物多様性が豊かな土が、どのように植物の生長に大切化について解説します。

教授 金子信博 KANEKO Nobuhiro 主な担当予定授業科目
生態系と物質循環 I・II

土壌生態学研究室

私たちの食料は9割以上が土壌を使って作られたものですが、その土壌は人間活動の影響で急速に劣化しています。土壌生物の生活を知り、土壌の生態系の仕組みを知ることが人類の持続可能性にとって重要なテーマとなってきました。土壌の生物多様性が豊かな土が、どのように植物の生長に大切化について解説します。特にきのこ動物の相互作用の研究に取り組んでおり、ポスターでは学生の研究テーマについて紹介します。

准教授 中森泰三 NAKAMORI, Taizo 主な担当予定授業科目
生態毒性学 I・II

地域政策研究室

経済だけではなく福祉や環境、文化の統合的な発展が課題となっています。研究室では、経済社会の課題が発見され解決策が見出されていく、人々の基本的な生活単位である都市・地域経済に注目し、その経験から学ぶことを通じて新しい発展政策の構築を目指しています。ポスターでは、安心・安定の福祉社会と経済発展の統合、豊かな生活環境と経済発展の統合に関する研究を中心に紹介します。

准教授 遠藤 聡 ENDO, Akira 主な担当予定授業科目 都市・地域経済学 I・II

多様性生態学研究室

野生の生物と人間が共存できる地域づくりをめざし、生物の多様性を保全できる景観の設計や、外来生物の導入によって地域の自然が変わってしまう問題を、植物や動物について景観生態学などの視点も含めて研究しています。

教授 小池 文人 KOIKE, Fumito 主な担当予定授業科目 生物群集とリスク I・II, 生態系設計学

地質学と地球システム科学研究室

地球は約 46 億年前に誕生し、コア・マントル・地殻・海洋・大気・磁場が形成された後、億年スケールにわたる物質分化やシステム相互作用を経て、こんにちの姿に至っています。過去の地球を紐解くところは、現在および未来の地球を見通すことにつながります。研究室では、野外地質調査や岩石・鉱物を対象とした物理化学分析を通じて、地球が形成された直後の様子や地球深部の物質循環を解明するといったテーマに取り組んでいます。ポスターではその面白さを紹介できればと思います。

准教授 山本伸次 YAMAMOTO, Shinji 主な担当予定科目 地球システム論 I・II, 地球物質循環論

構造地質学・岩石物性研究室

地殻ダイナミクスをフィールドワークと高圧実験から探求するため、大陸衝突帯や島弧衝突帯、さらに過去の変動帯（南極等）で地質調査を行っています。また、岩石の高温高圧実験を行い、地殻深部の構成岩石モデルを構築し、構造地質、地殻、地震波速度、超大陸、高圧岩石物性の研究を行っています。

教授 石川 正弘 ISHIKAWA, Masahiro 主な担当予定授業科目 地球科学, 地球ダイナミクス

哲学・倫理学研究室

ベルクソン『創造的進化』を素材として認識に関する研究を行っています。

宮崎 隆 MIYAZAKI Takashi 主な担当予定授業科目 生命論の哲学 I・II

植物生態学研究室

生態系を保全するためには生物界のルールを知ることと人々の取組みの両方が必要です。研究室では植物の分布、戦略、進化などについて、また社会の取組みについても研究しています。ポスターでは地形に制約される森林の構造、および野草の花の形が決まる進化生態的理由について紹介します。

准教授 酒井 暁子 SAKAI, Akiko 主な担当予定授業科目 個体群生態学・進化生態学概論 I・II

都市環境・エネルギーシステム研究室

人間活動を維持するためにはエネルギーを消費しなければなりません。しかしながら、エネルギーを消費することは資源枯渇や地球温暖化などの地球規模の環境問題を引き起こすだけでなく、ヒートアイランド現象や大気汚染などの地域（都市）規模の環境問題も引き起こします。研究室では、持続可能な地球を維持しつつ、快適な都市環境を実現するために、これから構築していくべきエネルギーシステムの在り方やその利用に関わるリテラシーを明らかにするための研究教育を行なっております。

准教授 鳴海 大典 NARUMI, Daisuke 主な担当予定授業科目
環境・エネルギーシステム論 I・II

古環境学研究室

新生代（約 6500 万年前から現在）を対象とし、軟体動物や化学合成生態系などの化石と地層の記録から地球の過去の環境を復元する研究をしています。三浦半島などで分子化石による過去の湧水活動の復元なども行っています。

教授 間嶋 隆一 MAJIMA, Ryuichi 主な担当予定授業科目
古環境学 I・II

古生態学研究室

多様な生物は、どのようにして地球上に誕生し、どのように進化してきたのでしょうか。過去の生物の古生態や進化を明らかにしようと、化石の研究を進めています。おもな研究対象は、“アンモナイト”と呼ばれる化石です。ポスターでは、インドでのアンモナイト採取について紹介します。

准教授 和仁 良二 WANI, Ryoji 主な担当予定授業科目
地球環境変動と生命進化 I・II

数理社会学

社会的選択理論などを含めて社会を数理的に扱う研究を幅広く行っています。社会の中には数式であらわすことが難しい問題も多いのですが、これをどう取り扱えば有益な提案ができるかについても研究しています。

志田 基与師 SHIDA Kiyoshi 主な担当予定授業科目
合意形成とリスク I・II

生物海洋学研究室

海洋環境の変動を海洋生物との関係から解析し、海洋生態系の機能と役割、及び海洋生物の多様性について研究しています。ポスターでは、相模湾で実施している海洋環境の長期モニタリング調査の結果として、栄養塩類と赤潮原因種を含む植物プランクトンの研究について紹介します。

教授 菊池 知彦 KIKUCHI, Tomohiko 主な担当予定授業科目
海洋システム論 I・II

生物海洋学研究室

海洋で主要な動物プランクトンであるカイアシ類の生活史戦略や生態を明らかにし、海洋生態系における役割の評価と海洋環境との関わりについて研究をしています。ポスターでは、相模湾におけるカイアシ類の個体群動態と二次生産（卵生産）の環境変動との関わりについて紹介します。

准教授 下出 信次 SHIMODE, Shinji 主な担当予定授業科目
海洋生物学 I・II

グローバル・ローカル経営学研究室

グローバル化に伴う経営課題について研究しています。これまでローカルであった経営体が、活動する地域を変えて海外事業を展開する上で、新たな競争優位性をどのように構築していくのかが、主要な研究課題です。

教授 周佐 喜和 SHUSA Yoshikazu 主な担当予定授業科目 組織マネジメントとリスク I・II

入手しやすい教員の著書・翻訳書 展示

<主編著・主翻訳>

- 2016年, 丸善出版「最新環境百科」松田 裕之秋庭 はるみ, 戎谷 舞子, 木村 久美子 (監修)他
- 2015年, 日本規格協会「リスク三十六景-リスクの総和は変わらない どのリスクを選択するかだ」野口和彦
- 2015年, 共立出版, 「植物群集の構造と多様性の解析 (生態学フィールド調査法シリーズ)」佐々木 雄大, 小柳 知代, 古川 拓哉, 内田 圭, 小山 明日香
- 2014年, 医聖社「格致余論注釈」長谷部 英一, 秦 玲子, 上村 元顧, 松下 道信, 恩田 裕正
- 2012年, 東京大学出版会, 「海の保全生態学」, 松田裕之 著
- 2012年, 共立出版, 「エコシステムマネジメント」, 森 章 編著
- 2012年, 東海大学出版会, 「生態系の暮らし方」, 小池文人, 金子信博, 松田裕之, 茂岡忠義 編著
- 2012年, 朝倉書店, 「古生物学入門」, 間嶋隆一・池谷仙之 著
- 2010年, 勁草書房, 「生物多様性というロジック: 環境法の静かな革命」, 及川敬貴 著
- 2009年, 日本規格協会「リスクマネジメント—目標達成を支援するマネジメント技術 (JSQC 選書)」野口 和彦, 日本品質管理学会, 日本 QC 学会
- 2009年, 東海大学出版会, 「生物多様な星の作り方: 生態学からみた地球システム」, デイビッド・ウィルキンソン著, 金子信博 訳
- 2009年, 実践出版「経営学〈2〉グローバル・環境・情報化社会とマネジメント (専門基礎ライブラリー)」周佐 喜和, 辻井 洋行, 仲本 大輔, 竹川 宏子

- 2008年, 実践出版「経営学〈1〉企業の本質 (専門基礎ライブラリー)」周佐 喜和, 辻井 洋行, 仲本 大輔, 竹川 宏子
- 2008年, オーム社, 「生態系サービスと人類の将来」, Millennium Ecosystem Assessment 編, 横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会訳
- 2008年, 共立出版, 「生態リスク学入門: 予防的順応的管理」, 松田裕之 著
- 2008年, オストロニクス社「マネジメント入門 —技術者・研究者もよく分かる—」周佐 喜和, 鈴木 邦雄
- 2008年, NTT 出版, 「なぜ生態系を守るのか: 環境問題への科学的な処方箋」, 松田裕之 著
- 2007年, 築地書館, 「土壌動物学への招待: 採集からデータ解析まで」, 金子信博ほか編著
- 2007年, 東海大学出版会, 「土壌生態学入門—土壌動物の多様性と機能」, 金子信博 著
- 2007年, オーム社, 「生態環境リスクマネジメントの基礎: 生態系をなぜ、どうやって守るのか」, 浦野紘平・松田裕之 ほか編著
- 2004年, 共立出版, 「ゼロからわかる生態学」, 松田裕之 著
- 2003年, 北海道大学出版会, 「アメリカ環境政策の形成過程」, 及川敬貴 著
- 2000年, 共立出版「環境生態学序説—持続可能な漁業、生物多様性の保全、生態系管理、環境影響評価の科学」松田 裕之
- 2000年, 勁草書房「集合的選択と社会的厚生」, アマルティア セン (著), 志田 基与師 (翻訳)
- 1998年, ミネルヴァ書房, 「つきあいかたの科学」, ロバート・アクセルロード 著, 松田裕之 訳
- 1995年, 現代書館, 「「共生」とは何か—搾取と競争をこえた生物どうしの第三の関係」松田 裕之

<専門書, 分担執筆など>

- 2015年, 東京大学出版会「草原生態学: 生物多様性と生態系機能」大黒 俊哉, 吉原 佑, 佐々木 雄大
- 2015年, 恒星社厚生閣「水圏の放射能汚染 福島の水産業復興をめざして」黒倉 寿, 金子 豊二, 神田 穰太, 田野井 慶太郎, 津旨 大輔, 松田 裕之, 他
- 2013年 技報堂出版 「健康に暮らすための住まいと住まい方エビデンス集」健康維持増進住宅研究委員会・健康維持増進住宅研究コンソーシアム編著
- 2013年, ミネルヴァ書房「小室直樹の世界—社会科学の復興をめざして」宮台 真司, 盛山和夫, 志田基与師, 今田高俊, 山田昌弘,
- 2013年, 化学工業日報社「実践・安全工学 シリーズ 3 安全マネジメントの基

- 礎」安全工学会, 新井 充, 佐藤 吉信, 高木 伸夫, 野口 和彦, 他
- 2012年, 三省堂, 「はじめての行政法」, 畠山武道, 下井康史, 及川 敬貴 鈴木 光岸本 太樹 小川 一茂
- 2012年, 講談社「海洋保全生態学 (KS 地球環境科学専門書)」白山 義久, 桜井 泰憲, 古谷 研, 中原 裕幸, 松田 裕之 (編集), 他
- 2012年, 化学工業日報社「実践・安全工学 シリーズ 1 物質安全の基礎」安全工学会, 新井 充, 佐藤 吉信, 高木 伸夫, 野口 和彦, 他
- 2012年, 化学工業日報社「実践・安全工学 シリーズ 2 プロセス安全の基礎」安全工学会, 新井 充, 佐藤 吉信, 高木 伸夫, 野口 和彦, 他
- 2011年, 創森社, 「里山創生—神奈川・横浜の挑戦—」, 佐土原聡, 小池文人, 嘉田良平, 佐藤裕一
- 2011年, 文一総合出版「環境史とは何か (シリーズ日本列島の三万五千年一人と自然の環境史)」湯本 貴和, 矢原 徹一, 松田 裕之
- 2010年, 地人書館「自然再生ハンドブック」, 西廣淳, 日本生態学会, 矢原 徹一, 竹門 康弘 松田裕之
- 2010年, 文一総合出版, 「外来生物の生態学」, 種生物学会
- 2010年, 岩波書店「地球環境と保全生物学 (現代生物科学入門 第6巻)」鷺谷 いづみ, 夏原 由博, 松田 裕之, 椿 宣高
- 2009年 オーム社 「ヒートアイランド対策—都市平熱化計画の考え方・進め方」空気調和・衛生工学会 編
- 2008年, ワールドプランニング「改訂・新社会老年学—シニアライフのゆくえ」古谷野 亘, 安藤 孝敏
- 2007年, 共立出版, 「環境教育—基礎と実践」, 横浜国立大学教育人間科学部環境教育研究会
- 2007年, 小学館「いきものがたり」養老 孟司, 本川 達雄, 藤田 紘一郎, セキユリヲ, しりあがり 寿, 五箇 公一, さとう あきら, 松田 裕之, 他
- 2007年, 東方書店「五十二病方 (馬王堆出土文献訳注叢書)」小曾戸 洋, 町 泉寿郎, 長谷部 英一, 他
- 2007年, 北大路書房「エイジング心理学: 老いについての理解と支援」 谷口孝一, 佐藤眞一(編著), 安藤孝敏, 他
- 2006年, 北大路書房「ペットと生きる—ペットと人の心理学」B. ガンター (著), Barrie Gunter (原著), 安藤 孝敏 (翻訳), 金児 恵 (翻訳), 他
- 2006年, 文一総合出版「世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学」湯本 貴和, 松田 裕之 (編集)
- 2004年 学芸出版社 「ヒートアイランドの対策と技術」森山正和, 鳴海大典, 他
- 2003年, 東北大学出版会, 「海を学ぼう」, 日本海洋学会
- 2003年. 岩波書店「演習環境リスクを計算する」中西 準子, 益永 茂樹, 松田 裕之
- 2000年, 北海道大学図書刊行会 「森の自然史—複雑系の生態学」酒井暁子ほか
- 1999年, 学芸社「心理学実験計画入門」Robert L. Solso (著), Homer H. Johnson (著), 浅井 邦二, 河合 美子, 安藤 孝敏 (翻訳), 他
- 1999年, 学会出版センター, 「遺伝子組換え植物の光と影 II」, 横浜国立大学環境遺伝子工学セミナー
- 1997年, 東京大学出版会「中国科学技術史〈上〉」杜 石然 (著), 陳 美東 (著), 周世徳 (著), 范 楚玉 (著), 金 秋鵬 (著), 曹 婉如 (著), 川原 秀城 (翻訳), 長谷部 英一 (翻訳), 他
- 1997年, 東京大学出版会「中国科学技術史〈下〉」杜 石然 (著), 陳 美東 (著), 周世徳 (著), 范 楚玉 (著), 金 秋鵬 (著), 曹 婉如 (著), 川原 秀城 (翻訳), 長谷部 英一 (翻訳), 他
- 1996年, 翔泳社「そこが知りたい!危機管理」本位田 正平, 野口 和彦
- 1992年, 千倉書房「多国籍企業と経済分析」リチャード・E. ケイビス (著), Richard E. Caves (原著), 岡本 康雄, 長瀬 勝彦, 白石 弘幸, 周佐 喜和, 姉川 知史 (翻訳)
- 1991年, 光文社「死の科学—生物の寿命は、どのように決まるのか」品川 嘉也, 松田 裕之